

あれだけ天文ファンを賑わせた「紫金山・アトラス彗星」も、いよいよ太陽系の彼方に去ろうとしています。ハレー彗星のように、太陽の公転周期が100年以下の彗星の場合、一生のうちに2回以上観望できる可能性があります。しかし紫金山・アトラス彗星の公転周期は実に20万年以上と計算されていて、次に地球近傍に戻って来る頃には、人類そのものが生存しているかどうかすらわかりません。

私はその去り行く彗星を、見慣れた浅間山と一緒に写しておきたいと思いました。その最適のロケーションが「二度上峠（にどあげとうげ）」です。高崎市と長野原町（北軽井沢）の境にあるこの峠からは、浅間以外に遮るものが何もなく、西の空が一望できるのです。前は天気は良くありませんでしたが、この日は快晴。狙い通り浅間の右上に彗星をとらえることができました。浅間の真上には天の川（いて座銀河）も写っています。

「銀漢をゆく彗星は 夜行列車の様に似て はるか虚空に消えにけり」

私は保坂嘉内（ほさかかない）の詩を思い出しました。これは、南アルプスの上空に現れたハレー彗星（1910年）を見て書かれたもので、「銀漢」とは「銀河（天の川）」のことです。

（2024年11月上旬／北軽井沢）

